同志社女子大学生活科学　*Vol*. 51，17～25（2017）

≪原著論文≫

地域社会における「姉妹都市」提携の機能と直面する課題（3）

――Adelaide 市と姫路市との「姉妹都市」提携事業として姫路市立動物園に寄贈されたウォンバットの事例――

The Functions of Sister City Affiliation in the Regional Communities and the Faced Problems（3）: The wombats presented to Himeji City Zoo as a symbol of Adelaide-Himeji friendship

古　性　摩里乃　　諸　井　克　英*　天　野　太　郎**
（Marino FURUSHO）（Katsuhide MOROI）（Taro AMANO）

Abstract: The purpose of this study is to examine the role of wombats presented to Himeji City Zoo as symbols of Adelaide-Himeji friendship. The affiliation was performed between Adelaide city and Himeji city in 1982. In remembrance of the affiliation, wombats were presented to Himeji City Zoo in 1985. However, Himeji City Zoo didn't make use of wombats for strategy for increasing visitors. The strategy adopted by the zoo was incorporation with various events held by Himeji city. This is at the opposite extreme from Satsukiyama Zoo in Ikeda city. The meaning of animals exchange as a symbol of sister city affiliation was discussed.

Key words: wombats, sister city affiliation, international exchange, Himeji, Adelaide.

Ⅰ．はじめに

古性・諸井・天野（2016 a）は，わが国における海外都市との「姉妹都市」提携の歴史と機能を概観し，この提携が直面する課題を論じた。その上で，古性・諸井・天野（2016 b）は，小田原市の「姉妹都市」提携事業に注目し，その現状と問題点について浮き彫りにした。本稿では，次の 2 点で小田原市と類似した特徴をもつ兵庫県・姫路市の「姉妹都市」提携に注目した。①歴史的に城下町として発展した，②県庁所在地ではないが当該県内での中核都市として位置づけられている。提携事業においても他の自治体でも取り組まれている動物交流の顛末とその意義を取り上げた。

同志社女子大学大学院生活科学研究科生活デザイン専攻
*同志社女子大学生活科学部
**同志社女子大学現代社会学部

Ⅱ．「姉妹都市」提携を活用した姫路市立動物園の事例

姫路市立動物園は，「姉妹都市」提携事業の一環としてわが国には生息していないウォンバットを寄贈された。この顛末に基づき，動物園にとっての動物交流がもつ意義について具体的に考察しよう。

(1) 地方中核都市としての姫路市

兵庫県西部に位置する姫路市は，人口 50 万人を超える中核都市である（'17 年 6 月現在 533,159 人；姫路市

情報政策室，2017）。播磨平野の中心に位置し，南側は瀬戸内海に面している。'06 年の市町村合併により（夢前町，家島町，香寺町，安富町），市の人口や面積が大幅に増加した。姫路市は，戦国時代に池田氏によって築かれた姫路城の城下町（1601 年〈慶長六年〉）として歴史的に発展し（今井，1999），現在は姫路城（1993 年に世界文化遺産として認定）を中心とした歴史的建造物や文化施設群から構成される関西地区有数の観光地となっている。また姫路市内には複数の鉄道路線が存在している（JR 山陽新幹線，JR 山陽本線，JR 播但線，JR 姫新線，山陽電鉄本線，山陽電鉄網干線）。

(2) 姫路市における「姉妹都市」提携の状況

姫路市は，現在海外の 5 都市との間に「姉妹都市」提携を締結している（Phoenix 市〈米国〉，Curitiba 市〈ブラジル〉，Charleroi 市〈ベルギー〉，昌原市〈韓国〉，Adelaide 市〈オーストラリア〉）。また，中国の太原市と友好都市提携を結んでいる。さらに，姫路市政 100 周年を記念して（1989 年），フランスの城である Château de Chantilly との間に「姉妹城提携」を締結した（公益財団法人姫路市文化国際交流財団，2015）。この提携は，日本の城と海外の城との間の提携という初の試みであった。

(3) 交流事業の一環としての Adelaide 市からのウォンバット（wombat）寄贈の顛末

姫路市立動物園は，姫路城内に '51 年に開園した動物園である（図 1-a；図 1-b）。移動動物園が来訪したことをきっかけに，日米講和条約を記念して開園が決定され，城内にあった東光中学校東側の 5,623 m² の敷地が活用された。タイ国から来たインド象など 40 頭あまりの動物の展示から始められた。翌年には子どものための遊戯施設も増設された（姫路市立動物園，2001）。現在は，敷地面積は 30,759.93 m² であり，104 種 385 点の動物が飼育されている（姫路市立動物園，2016；表 1-a）。

なお，姫路市立動物園のように城内に併設されている動物園としては，小田原城内の城址公園にある動物園や和歌山城内の和歌山公園動物園を挙げることができる。しかし，小田原城の場合には閉園同然となっている。「小田原動物園」は小田原市の「こども文化博覧会」の開催に合わせて '50 年に開園したが，小田原城跡の国史跡指定（'59 年）に際して国から「史跡にふさわしくない」という指摘を受けたことや，獣舎の老朽化に伴う維持管理費の問題などもあり，'05 年度から動物園施設の撤去作業が開始された。しかし，「縄張り意識」が強いニホンザルについては引き取り先がなく，現在も飼育されている（神奈川新聞，2015）。

図 1-a　動物園内から見た姫路城
（2016 年 11 月 27 日；著者撮影）

図 1-b　姫路市立動物園内の風景
（2016 年 11 月 27 日；著者撮影）

ところで，Adelaide 市との間に '82 年に姉妹都市提携が行われ，その交流の一環として，ウォンバットが姫路市立動物園に送られることになった。もともと '83 年に南オーストラリア州首相が姫路を訪れた際に「友好の動物使節」としてウォンバットを送ることを約束した。翌年の 9 月に姫路を訪れた同州観光相は「ウォンバットと共にカンガルー六頭も十月に届ける」と約束した（朝日新聞，1984；読売新聞，1984）。姫路市は，早速 1,000 万円の経費をかけて獣舎を動物園内に新設したが，オーストラリア連邦政府による保護動物の輸出規制のために '84 年にはこの動物たちが来ることはできなかった（神戸新聞，1985 a）。そこで，獣舎の周囲の植栽による直射日光の遮断などの対処をし，輸出が可能となり，5 月にはウォンバットのつがいとカンガルー 6 頭がようやく来ることになった（朝日新聞，1985 a；神戸新聞，1985 b；毎日新聞，1985 a；読売新聞，1985 a）。

これらの動物は，5 月 30 日夕方に到着し，報道陣に

表 1-a　姫路市立動物園の動物種一覧－獣舎別－

	獣舎	動物種
ほ乳類	エリマキキツネザル舎	エリマキキツネザル
	オタリア舎	オタリア
	カバ舎	カバ
	カピバラ舎	カピバラ
	カンガルー舎西	アカカンガルー
	カンガルー舎東	アカカンガルー
	キリン舎	アミメキリン
	クマ舎	ホッキョクグマ
	コアリクイ舎	ミナミコアリクイ マタコミツユビアルマジロ
	サル舎	サバンナモンキー ブラッザグェノン エリマキキツネザル アヒル（アヒル池）
	シカ舎	ホンシュウジカ
	シマウマ舎	グラントシマウマ
	小獣舎	アフリカタテガミヤマアラシ ニッポンアナグマ ホンドタヌキ ホンドキツネ カラカル パルマワラビー
	ゾウ舎	アジアゾウ
	ワオキツネザル舎	ワオキツネザル
	ツチブタ舎	ツチブタ
	猛獣舎	エゾヒグマ ライオン
	ラクダ舎	ヒトコブラクダ
	リスザル舎	ボリビアリスザル
	レッサーパンダ舎	レッサーパンダ
	ロバ舎	ロバ
鳥類他	インコ舎・北	アカコンゴウインコ ベニコンゴウインコ ルリコンゴウインコ
	インコ舎・南	キエリボウシインコ オオバタン シロビタイムジオウム モモイロインコ コキサカオウム
	キジ舎	ニホンキジ キンケイ ニジキジ ミカドキジ ベニジュケイ ミミキジ ハッカン シロミミキジ チャボ
	クジャク舎	マクジャク インドクジャク ホオジロカンムリヅル
	小鳥の丘	セキセイインコ オカメインコ ウズラ コザクラインコとボタンインコの雑種
	水禽舎・北	モモイロペリカン ウミネコ ユリカモメ アオサギ ゴイサギ コサギ アフリカクロトキ
	水禽舎・南	アカツクシガモ ツクシガモ オシドリ カルガモ キンクロハジロ ヒドリガモ コガモ ショウジョウトキ ニホンイシガメ クサガメ
	ダチョウ舎	ダチョウ
	ツル舎	タンチョウ
	フクロウ舎	アメリカワシミミズク アオバズク アナホリフクロウ オオコノハズク メンフクロウ フクロウ
	フラミンゴ舎	チリーフラミンゴ
	ペンギン舎	マゼランペンギン
	猛禽舎	オジロワシ シロフクロウ ソウゲンワシ ハチクマ
	六角堂	チャボ ベニジュケイ
は虫類他	は虫類舎	ボールニシキヘビ カーペットニシキヘビ グリーンイグアナ アカアシガメ ケヅメリクガメ ホルスフィールドリクガメ アカミミガメ
	ミニ牧場	ヤギ ブタ ウシ ウコッケイ
	ふれあい広場	ヒツジ ブタ アヒル コールダック テンジクネズミ ウサギ

〈*http : //www.city.himeji.lg.jp/var/rev 0/0095/1530/201711414446.pdf*

図 1-c-イ　姫路市立動物園内に展示されているウォンバットの剥製
（2016 年 11 月 27 日；著者撮影）

公開された（朝日新聞，1985 b；神戸新聞，1985 c）。ところが，ウォンバットが「穴居性の夜行動物」であるために，昼間は姿を見せないという事態が生じた（神戸新聞，1985 d；読売新聞，1985 b）。木製トンネルなどの対策がとられたがうまくいかず（神戸新聞，1985 e），コンクリート管と土砂を併用して設置したところ，ウォンバットのお気に入りの場所となった（神戸新聞，1985 f）。7 月 18 日には一般公開され，入園者もウォンバットの姿を見ることができるようになり，子どもたちも喜んだ（神戸新聞，1985 g）。

ところで，動物交流によって動物園にウォンバットが来たことが入園者数にどのような変化をもたらしただろうか（表 1-b 参照）。ウォンバットが来た ’85 年の入園者数は前年とほとんど変わらなかったが（9,104 人減），’86 年には入園者の増加が見られた（31,555 人増）。しかし，’87 年では通常の入園者数に戻ったといえよう（18,200 人減）。ウォンバットの来園が上述したようにメディアで頻繁に取り上げられたことや，飼育施設の設置のためにかなりの費用がかかったことなどを勘案すると，この入園者数の動向は意外な結果と判断できる。ただし，動物園職員によると（著者による直接ヒアリング；2015 年 11 月 7 日），「動物園は基本的に屋外施設であるため，入場者数が多少その年の気候や気温に影響されることもある」とのことである。しかしながら，ウォンバットの来園が姫路市立動物園に恒常的な活気をもたらしたとは判断できない。これは，ウォンバットがそもそも「穴居性の夜行動物」であるため，来園反復行動の喚起につながらなかったといえよう。

動物園側は，当初，日本初のウォンバットの繁殖を目指していたが成功せず，’98 年，’99 年と連続して 2 匹

表 1-b　姫路市立動物園の入園者数の推移－1951 年から 2016 年－

年度	有料入園者数	年度	有料入園者数	年度	有料入園者数	無料入園者数	年度	有料入園者数	無料入園者数	年度	有料入園者数	無料入園者数	年度	有料入園者数	無料入園者数
1951	163,850	1961	518,072	1971	456,915		1981	314,236	61,384	1991	268,770	172,650	2001	208,864	261,345	2011	171,912	235,739
1952	491,392	1962	511,192	1972	459,202		1982	306,733	51,512	1992	282,037	154,727	2002	200,746	194,092	2012	188,250	141,377
1953	508,557	1963	573,747	1973	497,460		1983	293,297	65,930	1993	281,533	169,243	2003	200,950	242,644	2013	185,242	147,788
1954	439,091	1964	645,917	1974	469,821		1984	258,383	65,106	1994	225,735	238,349	2004	196,879	289,743	2014	206,823	280,649
1955	442,032	1965	543,485	1975	452,898		1985	252,255	62,130	1995	271,356	148,878	2005	203,407	225,561	2015	231,862	527,239
1956	433,557	1966	472,441	1976	391,504		1986	264,503	81,437	1996	256,963	169,848	2006	209,648	204,768			
1957	392,611	1967	419,747	1977	370,885		1987	251,673	76,067	1997	239,931	160,103	2007	207,420	210,893			
1958	373,044	1968	457,526	1978	362,441		1988	254,123	112,920	1998	204,220	198,439	2008	182,624	575,524			
1959	404,161	1969	484,837	1979	332,697		1989	208,425	789,862	1999	215,640	215,199	2009	233,906	166,103			
1960	418,938	1970	471,471	1980	321,066	42,061	1990	255,586	127,187	2000	195,262	214,319	2010	188,066	152,937			

1984 年姉妹都市 Adelaide 市よりウォンバットのつがい寄贈
1989 年 3 月～6 月：姫路シロトピア博覧会
2008 年 4 月～5 月：姫路菓子博 2008
2009 年 10 月：姫路城大天守閣保存修理工事
2015 年 3 月 27 日～：姫路城大天守閣保存修理工事完了に伴い，一般公開を再開（2009 年 10 月保存修理工事開始）
『姫路市立動物園開園 50 周年記念誌』（2001），『姫路市立動物園開園 60 周年記念誌』（2011），および『姫路市立動物園年報』（2012–2015）に基づき作成

とも死亡した（姫路市立動物園，2001，2011）。なお，現在この 2 匹は剥製として園内の剥製展示室に展示されている（図 1-c-イ；図 1-c-ロ）。ところが，Adelaide 市との「姉妹都市」交流事業の一環として姫路市立動物園にこの 2 匹の動物が来たことに関する説明はされていない。園が発行している記念誌などによってしか，この経緯を知ることができない。また，この交流以降，この動物園では「姉妹都市」交流としての動物の来園は行われていない。

このウォンバットの来園が上述したようにメディアで盛んに取り上げられたにもかかわらず，動物交流事業として発展する契機となり得なかった理由として，次の 2 点を指摘できるだろう。

1 つ目はウォンバットの特性にある。ウォンバットは，夜行性でありかつ地中に巣穴を掘って生活を営んでいる。さらに性格も穏やかであり，動物園での展示動物としては来園者にとって持続的な魅力をもたらさない可能性がある。当時の日本では「珍獣」であったとしても，来園者にとって一時的な好奇心の充足をもたらすだけであり，先述したように来園反復行動にはつながりにくいといえる。

2 つ目の点は，寄贈者側と動物園とのコミュニケーションにある。寄贈前には獣舎の視察などが頻繁に行われたが，これはあくまでも輸出規定を充足しているかに関する調査であった。当時の新聞資料を見ても，動物が到着してから一般公開までの間に飼育や展示に関するアドバイスなどが密に行われたとはいえず，寄贈自体が目的となっている節がある。ウォンバットの繁殖を目標としたにもかかわらず失敗したことが寄贈後の現地との密なコミュニケーションの欠如による可能性も否めない。

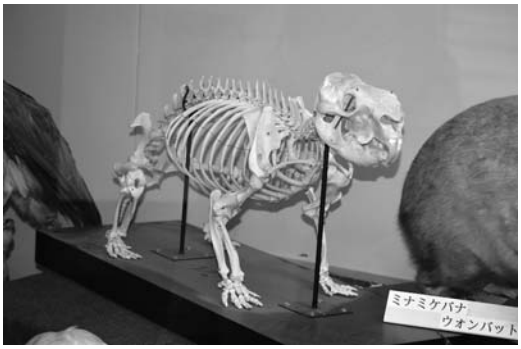

図 1-c-ロ　姫路市立動物園内に展示されているウォンバットの骨格標本
（2016 年 11 月 27 日；著者撮影）

対照的に，戦後から活発に動物交流を実施している名古屋市の場合には，実際に動物園の職員が相手側の都市の動物園に赴いて飼育や展示に関する技法・方法を学び，このことが動物園間の姉妹動物園提携といった密な関係性に繋がっている（名古屋市東山動物園と Taronga 動物園；名古屋市東山動物園，2011）。名古屋市のような大都市と姫路市のような地方中核都市の経済力を考慮すると，実施できる活動に限界はあるだろう。しかしながら，海を渡ってきた希少動物を「見世物」的に一過的なブームに終わらせてしまったという姫路市立動物園の事例は大きな教訓とすべきであろう。

（4）姫路市立動物園の集客戦略

ちなみに，表 1-b から明らかであるが，姫路市立動物園の場合には姫路城を中心とした大きなイベントと連関して入園者が極端に増加している。例えば，1989 年には「姫路シロトピア博覧会」，2008 年には「姫路菓子博

表 1-c　姫路市における主要観光施設利用者数の 4 年間に渡る推移

	2012 年	2013 年	2014 年	2015 年
姫路城	711	881	919	2,867
姫路セントラルパーク	560	541	582	648
姫路市動物園	330	333	487	759

単位：千人
『図で見る姫路経済』（姫路市商工会議所，2013-2016）に基づき作成

表 1-d　姫路市立動物園における入園料が無料となる条件

・5 歳未満
・65 歳以上の市民で高齢者優待福祉カード持参者
・市内の保育園（所）児，幼稚園児，小・中学生でどんぐりカード持参者
・身体障害者手帳，療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳持参者とその介護者 1 名
・動物園サポーター登録証持参者
・姫路観光パスポート持参者
・市内の保育園（所），幼稚園，小・中学校，特別支援学校等の教育目的による団体及び引率者
・市外の保育園（所），幼稚園，小・中学校，特別支援学校等の教育目的による団体及び引率者
・市立高校の教育目的による団体の引率者
・岡山市・鳥取市の 65 歳以上の市民で各市発行の優待カードまたは公的な身分証持参者
・連携中枢都市圏構想推進要綱に基づく連携協約市町での「どんぐりカード」持参者及び保育園（所），幼稚園，小・中学校，特別支援学校等の教育目的による団体及び引率者

『姫路市立動物園年報（2015 年度）』に基づき作成

表 1-e　姫路市立動物園の入園料の推移－1951 年から 2000 年－

年度	大人		中人		小人	
1951	20 円	12 歳以上			10 円	6 歳～12 歳
1953	30 円	18 歳以上	20 円	12 歳～18 歳	10 円	4 歳～12 歳
1962	40 円	15 歳以上			20 円	4 歳～15 歳
1965	60 円	15 歳以上			30 円	4 歳～15 歳
1971	100 円	15 歳以上			30 円	4 歳～15 歳
1976	200 円	15 歳以上			30 円	5 歳～15 歳

『姫路市立動物園開園 50 周年記念誌』（2001）に基づき作成

表 2　五月山動物園のウォンバットの歴史

1957 年	五月山動物園開園
1990 年	Launceston 市からウォンバット 3 匹（**ワイン**，**ワンダー**，ティア）寄贈
1992 年	サツキ誕生
1993 年	さくら誕生
2003 年	ティア老衰死
2005 年	さくら老衰死
2007 年	新たに 2 匹（**ふく**，あやは）寄贈
2010 年	あやは急性腸捻転で死亡
2011 年	サツキ肺炎で死亡

読売新聞（2012）に基づき作成
太字は現在も生存

2008」，また 2015 年には「姫路城大天守閣保存修理工事完了に伴う一般公開の再開」と明らかにそれぞれ連動している。表 1-c には，ここ 4 年間に渡る姫路市における主要観光施設利用者数の推移が示してある。2014 年までは，姫路市立動物園よりも姫路セントラルパークの来園者の方が多かったが，2015 年の 2 施設の来園者数は逆転している。つまり，姫路市立動物園の場合には，大阪市天王寺動物園などとは異なり，動物園の自前イベントの開催などによる来園者増を企図するよりも，姫路市自体のイベントに明らかに依存しているといえる。例えば，'89 年の姫路シロトピア博覧会の際には姫路市立動物園は展示ゾーンの一つとして開放され，ウォンバットも人気を集めた（姫路市立動物園，2011）。そもそも姫路市立動物園の場合には，表 1-b からも分かるように「無料入園者（表 1-d 参照）」の割合がかなり高く，「有料入園者（表 1-e 参照）」の増加による財政上の寄与を当てにしていないことが推察できる。

Ⅲ．おわりに

以上に述べたように，姫路市立動物園にウォンバットは鳴り物入りで登場するが，動物園の中心的存在にはならなかった。さらに，このウォンバットの継続的飼育は失敗に終わった。

図 2-a　五月山動物園で飼育中のウォンバット（2016 年 11 月 30 日；著者撮影）

図 2-b　五月山動物園内で展示されているウォンバットの剥製（2016 年 11 月 30 日；著者撮影）

しかし，例えば池田市が Launceston 市（Australia）との間の「姉妹都市」提携 25 周年に伴い Wildlife Park から五月山動物園（'57 年開園）へ '90 年に寄贈されたウォンバットの場合には，継続的飼育に成功している（表 2，図 2-a，図 2-b）。国内で初めての繁殖にも成功し，現在 3 匹が飼育されている（読売新聞，2010；2011；2012）。さらに，五月山動物園は，このウォンバットに対する関心を高めるための工夫も行っている。「ふく」のお嫁さんを迎える費用捻出のために，アイドルユニット（「キーパー・ガールズ」）を結成するとともに（読売新聞，2015），インターネットを通してウォンバットの日常生活の様子を観察できるようにした（「五月山動物園ライブカメラウォンバットてれび」）。池田市は，「ウォンバットを未来につなぐ！」というスローガンを掲げ，Wildlife Park 側と交渉し「ふく」の花嫁候補の雌 1 頭に加えカップルの 2 頭が '17 年秋に寄贈されることとなった。これに伴う園舎の整備費を「ふるさと納税」で募った（毎日新聞，2017）。この背景には，'80 年代に人件費や飼育費の財政的問題に加えゴルフ場計画の浮上に伴い，五月山動物園の閉鎖が論議されたが，市民の後押しによって園が存続されたことにある（川田，2007）。ちなみに，市の中心部に位置する栄町商店街ではウォンバットをメイン・キャラクターにしている（図 2-c）。

「姉妹都市」提携の一環として五月山動物園に寄贈されたウォンバットは，姫路市立動物園の場合とは対照的に，今なお動物園の人気動物の地位を占めている。両動物園でのウォンバットに関する運命の差異は，先述したように動物園が取る集客戦略の基本的な差異にあるといえよう。一方は地域全体におけるイベントに依存した戦略であり，他方は園内に人気動物を作り出すことによる戦略である。この違いによってウォンバットの位置づけの差異がもたらされたのである。ちなみに動物園から 1 km 弱のところに池田城跡公園が存在する。

図 2-c　池田栄町商店街に設置されている郵便ポスト上のウォンバット像
（2016 年 11 月 30 日；著者撮影）

本稿では，先行研究（古性ら，2016 a；2016 b）で扱った「姉妹都市」提携の問題を動物園における動物交流に適用することを試みた。姫路市立動物園に寄贈されたウォンバットの顛末を中心に論じ，「姉妹都市」提携の発展という観点からすると，このウォンバット寄贈はあまり効果的ではなかったと結論できた。この動物交流は他の動物園での様々な形で試みられているが，今後も引き続き検討を加えて行くべきであろう。

なお，本稿で取り扱った姫路市立動物園におけるウォンバットの事例には国際的背景はないと判断できる。しかし，'72 年に中国から上野動物園に贈呈されたパンダは，友好の証というよりも自国の限られた地域にのみ生息する希少動物を中国の外交戦略の一環として活用されている（家永，2011）。佐藤栄作政権（'64-'72 年）下では度重なる失敗に終わるパンダ誘致が，親中国的方向にシフトした田中角栄政権（'72-'74 年）下では見事に日の目を見るのである（表 3 参照）。まさに動物園がわが国と中国との外交戦略の中に取り込まれたのである。と

表 3　中国からパンダが上野動物園に贈呈されるまでの概略

'41 年	宋美齢（蒋介石夫人）による米国へのパンダ贈呈
'58 年	パンダが登場するアニメ映画『白蛇伝』（東映）公開
'58 年	多摩動物公園初代園長・林寿郎によるパンダ誘致の試み（失敗）
'67 年	ロンドン動物園で黒柳徹子がパンダと初めて対面
'69 年	動物商・京浜鳥獣貿易社長・河野通敬がパンダ譲渡を申し入れ（失敗）
'70 年	女性ファッション雑誌『an・an』のシンボルマークにパンダを起用
'71 年	昭和天皇訪欧時のロンドン動物園におけるパンダとの対面
'71 年	東京都知事・美濃部亮吉が訪中の際にパンダ譲渡を申し入れ（失敗）
'72 年	衆議院議員・土井たか子（社会党）が北京動物園訪園時にパンダ譲渡を申し入れ（失敗）
'72 年	田中角栄政権による「日中共同声明」調印に伴い「パンダ雌雄一対の贈呈」発表
'72 年	「カンカン（雄）」と「ランラン（雌）」が上野動物園へ

家永（2011）に基づき作成

りわけ，希少動物の政治的利用に関する問題も重要であることも最後に指摘しておこう。

［付記］

（1）本論文は，第 1 著者が第 3 著者の下で作成した卒業論文（本学・現代社会システム学科 2015 年度卒業論文）に基づいている。この論文の一部を第 2 著者とともに大幅に追加・改稿した。

（2）姫路市立動物園には，『姫路市立動物園年報』など多くの資料を無償で頂いた。記して感謝致します。

Ⅳ．引用文献

古性摩里乃・諸井克英・天野太郎　2016 a　地域社会における「姉妹都市」提携の機能と直面する課題（1）－「姉妹都市」提携の歴史と広がり－　生活科学（同志社女子大学），**50**, 13-18.

古性摩里乃・諸井克英・天野太郎　2016 b　地域社会における「姉妹都市」提携の機能と直面する課題（2）－小田原市の事例－　生活科学（同志社女子大学），**50**, 19-23.

姫路市立動物園　2001『姫路市立動物園開園 50 周年記念誌』

姫路市立動物園　2011『姫路市立動物園開園 60 周年記念誌』

姫路市立動物園　2013『姫路市立動物園年報　平成 24（2012）年度』

姫路市立動物園　2014『姫路市立動物園年報　平成 25（2013）年度』

姫路市立動物園　2015『姫路市立動物園年報　平成 26（2014）年度』

姫路市立動物園　2016『姫路市立動物園年報　平成 27（2015）年度』

家永真幸　2011『パンダ外交－中国はパンダという「資源」をどう活用し，国際社会を渡ってきたか？－』メディアファクトリー新書

今井林太郎（監修）・平凡社地方資料センター（編集）1999『歴史地名大系　兵庫県の地名 2』平凡社，444-446.

川田敦子　2007『さつきやま　ウォンバット物語』（財）池田市公共施設管理公社

公益財団法人姫路市文化国際交流財団　2015『平成 26 年度海外姉妹都市青少年交流事業報告書　経験を力に！　姫路から世界へ！』

［新聞記事］

朝日新聞　1984「ウォンバットが姫路に」9 月 7 日朝刊

朝日新聞　1985 a「珍獣ウォンバット　連休明けに姫路へ」4 月 19 日朝刊

朝日新聞　1985 b「なが旅お疲れさん」5 月 31 日朝刊

神戸新聞　1985 a「いつ来るの　珍獣ウォンバット」2 月 6 日朝刊

神戸新聞　1985 b「豪州の珍獣ウォンバット　来姫決まる」4 月 19 日朝刊

神戸新聞　1985 c「豪から珍獣ウォンバット」5 月 31 日朝刊

神戸新聞　1985 d「“動物大使”かくれんぼう」6 月 5 日夕刊

神戸新聞　1985 e「いまだに顔見せず」7 月 12 日朝刊

神戸新聞　1985 f「お待たせ　あすから公開」7 月 17 日朝刊

神戸新聞　1985 g「ウォンバットを公開」7 月 19 日朝刊

毎日新聞　1985 a「近く“親善動物”来る」4 月 19 日朝刊

読売新聞　1984「珍獣ウォンバット　来月やって来ます」9 月 7 日朝刊

読売新聞　1985 a「おまたせ　ウォンバット」4 月 19 日朝刊

読売新聞　1985 b「珍獣ウォンバットは臆病者」6 月 16 日朝刊

読売新聞　2010「池田・五月山動物園ウォンバット死ぬ」5 月 7 日朝刊

読売新聞　2011「国内初の自然繁殖ウォンバット死ぬ」12 月 2 日朝刊

読売新聞　2012「五月山動物園のウォンバット　サツキ骨格標本に」6 月 4 日朝刊

読売新聞　2015「動物園アイドル結成　五月山「キーパー・ガールズ」」8 月 30 日朝刊

［インターネット］

姫路市情報政策室　2017「姫路市の推計人口（平成 29 年 6 月 1 日現在）」https : //www.city.himeji.lg.jp/toukei/hmj/hmj17/hmj1706.pdf〈2017 年 6 月 13 日閲覧〉

神奈川新聞　2015「「縄張り意識強くて…」引き取り手なく 10 年，小田原城址公園のサル」http : //www.kanaloco.jp/article/71972〈2017 年 7 月 18 日閲覧〉

毎日新聞　2017「ウォンバット　新たな仲間　お嫁さんどんなかな？　今秋，豪から3頭受け入れへ　池田・五月山動物園」4月4日朝刊 https : //mainichi. jp / articles / 20170404 / ddl/k27/040/401000c〈2017年7月23日閲覧〉

名古屋市東山動物園（外務省HP）　2011「姉妹都市　シドニー市との交流」http : //www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/local/pdfs/higashi_sydney_1105.pdf〈2017年10月19日〉

五月山動物園ライブカメラウォンバットてれび　http : //www.wombat-tv.com/live.php〈2017年7月18日閲覧〉

（2017年10月20日受理
2017年11月17日採択）